

JDF/CIP4対応ワークフローシステム「Trueflow」の次期バージョン、 Hybrid workflow に対応

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアテクノロジーカンパニー(社長：藤澤 恭平)はこのたび、JDF対応PDFワークフローシステム「Trueflow(トゥルーフロー)」の次期バージョンが、オンデマンドカラーデジタル印刷機(以下、POD)へのデータ出力を実現するHybrid workflow(ハイブリッドワークフロー)に対応することを発表しました。

近年印刷業界では、クライアントとなる企業の製品・サービスにおけるライフサイクルの短縮を受け、多品種・小ロット化、短納期化がますます進んでいます。また、インターネットやパソコンの普及により、デジタルデータによる印刷会社と企業間のコミュニケーションの在り方も大きく変化しようとしています。このような状況の下、印刷会社には従来の収益構造を変革する取り組みが求められています。

印刷関連機材における2つのトレンドとしては、1つは今年から本格化が見込まれる「PDFワークフローへの移行」が注目されます。当社では、既に発表している通り、Trueflowの次期バージョンにAdobe PDF Print Engine[※]を搭載します。このTrueflow次期バージョンの運用により印刷会社は、クライアントと制作者側の意図をPDFを介して正確に伝達し印刷するワークフローを構築できるため、顧客満足の上に対応できます。また、電子写真方式によるカラー無版デジタル印刷機の品質および性能が著しく向上しており、従来の用途に加え、今後は商業印刷においても導入が一層進むと予想されます。従って今後は、CTP用とPOD用に製版印刷ワークフローを別々に構築して使い分けるのではなく、印刷に求められる納期、品質、量、コストに応じて、印刷方式(出力デバイス)を使い分けられる効率の良いワークフローの実現が重要となります。このような業界の動向を背景に当社は、CTPワークフローシステムとしてトップシェアを誇るTrueflowシリーズにおいて、次期バージョンでCTPデバイスとPODデバイスを使い分けられるHybrid workflowに対応し、変化するニーズにいち早く応えます。

Hybrid workflowの主な運用形態の例としては、①印刷部数による選択の場合、大部数はCTP+オフセット印刷、周辺印刷物など小部数はPOD ②増し刷りの場合、最初の100部は特急納品としてPOD、残りの2,900部は通常納品としてCTP+オフセット印刷 ③追い刷りの場合、初版5,000部はCTP+オフセット印刷、納品後に追加の小ロット発注はPOD ④書籍の場合、表紙、口絵カラー部はPOD、本文白黒部はCTP+オフセット印刷、などが挙げられます。さらに、Hybrid workflowの運用により、クライアントに対する「印刷物の在庫圧縮の提案」や、POD導入による印刷機1台に必要な人件費の圧縮を導入効果として期待できます。

※ Adobe PDF Print Engine

印刷出版業界における次世代PDF印刷プラットフォームとして、デザインから印刷に至るあらゆる印刷生産工程で利用される新しい技術。透明効果などを含む複雑なデザインデータを変換することなく正確に印刷できるため、制作側の意図を印刷側に正確に伝達できます。

< Hybrid workflowの概要 >

Trueflowに登録されたCTPワークフローのJOB内容を、POD出力用に最適化したPDFとJDFに書き出します。

【最適化されるPDFの内容】

1. 面付け POD出力用のページ体裁
2. トラップ 要/不要の切り替えとトラップ量の調整
3. 色 CTP用の画像からプレーンな画像に補正

< 各社のコメント > 50音順

Hybrid workflowでサポートするPODシステム各社から、以下のコメントを頂いています。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 代表取締役社長 村瀬 治男氏

「キヤノンは、大日本スクリーンのHybrid workflowに『imagePRESS C7000VP』を対応させることで、効率的なワークフローを実現し、オフセット印刷に遜色ない画質や高い生産性・耐久性を兼ね備えたPODソリューションをご提供します」

コニカミノルタグラフィックイメージング株式会社 代表取締役社長 村田 憲治氏

「新製品である『低コスト&ハイクオリティオンデマンド印刷システムPagemaster Pro 6500』がHybrid workflowに対応することで、印刷会社さまは、オフセットとPODの融合を実現でき、ますますPagemaster Pro 6500採用の機会が広がると確信しております」

コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社 オンデマンドイメージング事業部長 亀井 雅彦氏

「Trueflowに接続可能となり、当社オンデマンド機の特長であるインラインでの丁合い、折り、中とじ、くるみ製本機能の威力を最大限に発揮できます。Hybrid workflowとの連携により、一気に最終商品まで仕上げる事が可能となり、ご利用の皆さまの競争力、利便性は飛躍的に高まるものと考えます」

ヒューレット・パカード カンパニー Steve Donegal氏

アジアパシフィック・ジャパン セールスマネージャー

インディゴ デジタルプレス ディビジョン

「オフセット印刷と同等の品質を表現できるデジタル印刷機のHP Indigo press 5000と、Trueflow次期バージョンとのシームレスな連携は、ユーザーに多くのメリットを提供できるものと確信しております。CTPとオフセット印刷からデジタル印刷へと大きな変革の到来を感じます」

富士ゼロックス株式会社 プロダクションサービス事業本部 マーケティング部長 勝田 勇生氏

「当社POD商品群は、高品質・高性能デジタル印刷機として高い評価を頂き、幅広くご導入いただいております。国内市場で広く普及しているTrueflowとのHybrid接続により、当社はオフセットとデジタルを融合させた新たなビジネスモデル構築を支援していきます」

< Hybrid workflowでサポートする主なPODシステム(予定) > 50音順

キヤノン：imagePRESS C7000VP

コニカミノルタグラフィックイメージング：Pagemaster Pro 6500

コニカミノルタビジネスソリューションズ：ONDEMAND PUBLISHER C65

ヒューレット・パカード：HP Indigo press 5000

富士ゼロックス：DocuColor 8000 Digital Press

* Adobe、Adobe PDF Print Engineは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他、記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。